



「歯の健康は将来的に体の健康にもつながる」と幼少期からの虫歯予防の大切さを訴える田中健一さん



「地域の子どもたちの健康を守りたい」と学校歯科医としての決意を新たにす小山田栄二さん

歯の健康育む 盛岡の学校医

2人に文科大臣表彰

田中さん

小山田さん

盛岡市高松の歯科医小山田栄二さん(67)と同市上堂の歯科医田中健一さん(67)は、全国学校歯科保健研究大会の第80回大会を記念し全国175人を選んだ文部科学大臣表彰を受賞した。長年にわたる学校歯科医としての功績が認められた。

検診に工夫重ねる

小山田さんは「自分が子どもの頃虫歯だらけだったから、痛みのつらさはよく分かる」と苦笑する。自身の体験を基に「虫歯のない子を増やしたい」と、26年以上にわたって同市大通3丁目の桜城小の学校歯科医として新たな試みを続けてきた。

1982年に同市盛岡駅前通に小山田歯科医院を開業し、90年に同校の学校歯科医に就任した。検診時に「指導しなごらうしっかり診たい」と

考え、従来の児童を座らせる方法から寝かせた状態で口に光を当てじっくり診る方法に変更。虫歯が疑われる児童に対しては、通院を促す治療勧告を何度も渡すことで診療率を上げてきた。

県歯科医師会常務理事や県保険医協会の歯科部会長も歴任。小山田さんは「同僚や学校の理解があればこそやってこれた」と周囲に感謝するとともに「歯科医療を通じて、自分の健康を自分で守る大切さを伝えた見つけ続ける。」

田中さんは90年から盛岡市青山の厨川中の学校歯科医を務めている。かつては千人を超える大規模校だった同校の検診は「とても1人では追いつかなかった」と後輩と手分けして当たったという。少子化のため現在の生徒数は半数近くになり負担は減ったが、当時の苦勞を振り返りつつ「周囲の協力があってこそ今回の表彰につながった」と感謝を込める。

密な指導を今後

田中さんは77年に盛岡市上堂に田中歯科医院を開業。現在は長男栄一さん(39)と切り盛りする。市歯科医師会副会長も歴任した。開業当初から東洋医学に興味を持ち、治療にははり治療も取り入れている。県内唯一の日本歯科東洋医学大会認定医で、同学会の東北支部の運営にも尽力する。

歯科治療が浸透した現在、すぐに治療が必要な子どもを検診で見つける機会は少なくなったという。「検診は健康に対する自立心を持たせるのも目的。密な指導を今後も続けたい」と意欲を見せる。